(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2007-146384
(P2007-146384A)
(43)公開日　平成19年6月14日(2007.6.14)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
E05B 65/12	(2006.01)	E05B 65/12	F	2E250
B60R 7/06	(2006.01)	B60R 7/06	G	3D022

審査請求 未請求　請求項の数 2　OL　（全 12 頁）

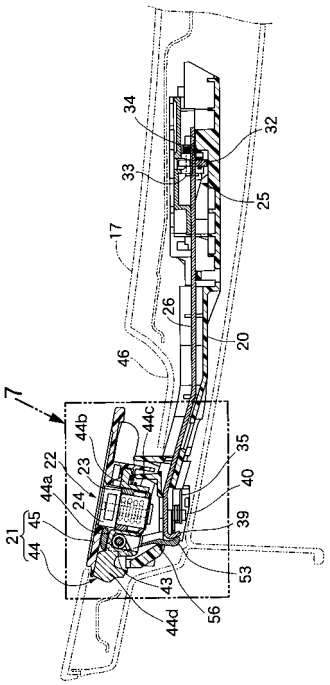
(21)出願番号　特願2005-338904 (P2005-338904)
(22)出願日　平成17年11月24日 (2005.11.24)

(71)出願人　000155067
株式会社ホンダロック
宮崎県宮崎市佐土原町下那珂字和田山３７００番地
(74)代理人　100071870
弁理士　落合　健
(74)代理人　100097618
弁理士　仁木　一明
(72)発明者　雪原　仁
宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂字和田山３７００番地　株式会社ホンダロック内
(72)発明者　宮川　卓也
宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂字和田山３７００番地　株式会社ホンダロック内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】グローブボックス装置

(57)【要約】
【課題】グローブボックス装置において、構成部品を少なくして構造を簡略化することによってコストの低減を図るとともに操作フィーリングを高め、しかも操作ハンドルの意匠面およびシリンダ錠間の隙間を小さくして外観性を高める。
【解決手段】操作ハンドル２１にシリンダ錠２２のシリンダ体２３が固定され、スライド作動に応じてロック機構２５のロック状態およびアンロック状態を切換えるスライド部材２６の一端およびシリンダ錠２２のロータ２４間に、該ロータ２４が解錠位置にあるときにスライド部材２６をロック作動位置からアンロック作動位置側にスライドさせるべく操作ハンドル２１とともに回動するロータ２４の回動力をスライド部材２６に伝達するもののロータ２４が施錠位置にあるときにはロック作動位置にあるスライド部材２６およびロータ２４間の動力伝達を遮断する連結部材５３が介装される。
【選択図】　図４



【特許請求の範囲】
【請求項１】
ボックス本体（１６）の開口部を開閉可能なリッド（１７）に取付けられるベース部材（２０）と、該ベース部材（２０）に回動可能に支承される操作ハンドル（２１）と、施錠位置および解錠位置間で回動するロータ（２４）がシリンダ体（２３）に回動可能に挿入されて成るとともに前記操作ハンドル（２１）に前記シリンダ体（２３）が固定されるシリンダ錠（２２）と、ロック作動位置およびアンロック作動位置間でのスライド動作を可能としたスライド部材（２６）を有するとともに該スライド部材（２６）のスライド動作に応じて前記リッド（１７）の閉鎖状態を維持するロック状態ならびに前記リッド（１７）の開放を許容するアンロック状態を切換えるロック機構（２５）と、前記ロータ（２４）が解錠位置にあるときに前記操作ハンドル（２１）を開放側に回動操作したときには前記スライド部材（２６）をロック作動位置からアンロック作動位置側にスライドさせるべく前記操作ハンドル（２１）とともに回動する前記ロータ（２４）の回動力を前記スライド部材（２６）に伝達するものの前記ロータ（２４）が施錠位置にあるときにはロック作動位置にある前記スライド部材（２６）および前記ロータ（２４）間の動力伝達を遮断するようにして前記ロータ（２４）および前記スライド部材（２６）間に介装される連結部材（５３）とを備えることを特徴とするグローブボックス装置。
【請求項２】
前記スライド部材（２６）および前記ベース部材（２０）間に、前記スライド部材（２６）をその長手方向一端側のロック作動位置に向けて付勢する戻しばね（３５）が設けられ、前記ロータ（２４）の外面に一端を対向させるとともに前記操作ハンドル（２１）の回動軸線と同一軸線まわりに回動することを可能として前記ベース部材（２０）に支承される前記連結部材（５３）の他端が、前記スライド部材（２６）がロック作動位置にある状態では前記ベース部材（２０）に設けられた規制部（５６）および前記スライド部材（２６）の一端間に挟まれるようにして該スライド部材（２６）の一端に対向配置され、前記ロータ（２４）の外面には、該ロータ（２４）が解錠位置にあるときに前記連結部材（５３）の一端に当接する駆動当接面（５４）と、前記ロータ（２４）が施錠位置にあるときに前記連結部材（５３）の一端に当接することを回避する逃げ凹部（５５）とが設けられることを特徴とする請求項１記載のグローブボックス装置。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、グローブボックス装置に関し、特に、リッドのロック状態およびアンロック状態を切換えるシリンダ錠を備えるグローブボックス装置の改良に関する。
【背景技術】
【０００２】
ボックス本体の開口部を覆うリッドに取付けられるベース部材に、水平方向に回動操作可能な操作ハンドルが支承され、操作ハンドルとは別の固定部分に設けられるシリンダ錠の施・解錠操作によって伝動機構を作動せしめ、その伝動機構の作動状態に応じて操作ハンドルの操作力のロック機構への伝達・遮断を切換えるようにしたグローブボックス装置が、たとえば下記特許文献１等により既に知られている。
【特許文献１】特開２００４－７６４４９号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
ところが上記特許文献１で開示されたものでは、伝動機構の構成部品が多く、しかも構造が複雑であり、コスト高になり易い。しかも構成部品が多いことに起因して、操作ハンドルの操作力をロック機構に伝達するのに作動遅れが生じ、操作荷重が急激に立ち上がることになって操作フィーリングが優れているとは言い難い。
【０００４】

また操作ハンドルとは別の固定部分にシリンダ錠が設けられており、閉鎖位置にある操作ハンドルの意匠面にシリンダ錠の先端部を臨ませる構成とした場合には、可動部分である操作ハンドルの意匠面と、シリンダ錠の先端部との間にずれが生じ易く、しかも操作ハンドル操作時の干渉を避けるために意匠面には大きめの開口部が設けられることが必要であるので、隙間が目立ってしまうことになり易い。このため従来のものでは各部品の寸法精度をあげて隙間が極力目立たないようにする工夫が必要であった。

【０００５】

本発明は、かかる事情に鑑みてなされたものであり、構成部品を少なくして構造を簡略化することによってコストの低減を図るとともに操作フィーリングを高め、しかも操作ハンドルの意匠面およびシリンダ錠間の隙間を小さくして外観性を高めたグローブボックス装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

上記目的を達成するために、請求項１記載の発明は、ボックス本体の開口部を開閉可能なリッドに取付けられるベース部材と、該ベース部材に回動可能に支承される操作ハンドルと、施錠位置および解錠位置間で回動するロータがシリンダ体に回動可能に挿入されて成るとともに前記操作ハンドルに前記シリンダ体が固定されるシリンダ錠と、ロック作動位置およびアンロック作動位置間でのスライド動作を可能としたスライド部材を有するとともに該スライド部材のスライド動作に応じて前記リッドの閉鎖状態を維持するロック状態ならびに前記リッドの開放を許容するアンロック状態を切換えるロック機構と、前記ロータが解錠位置にあるときに前記操作ハンドルを開放側に回動操作したときには前記スライド部材をロック作動位置からアンロック作動位置側にスライドさせるべく前記操作ハンドルとともに回動する前記ロータの回動力を前記スライド部材に伝達するものの前記ロータが施錠位置にあるときにはロック作動位置にある前記スライド部材および前記ロータ間の動力伝達を遮断するようにして前記ロータおよび前記スライド部材間に介装される連結部材とを備えることを特徴とする。

【０００７】

また請求項２記載の発明は、請求項１記載の発明の構成に加えて、前記スライド部材および前記ベース部材間に、前記スライド部材をその長手方向一端側のロック作動位置に向けて付勢する戻しばねが設けられ、前記ロータの外面に一端を対向させるとともに前記操作ハンドルの回動軸線と同一軸線まわりに回動することを可能として前記ベース部材に支承される前記連結部材の他端が、前記スライド部材がロック作動位置にある状態では前記ベース部材に設けられた規制部および前記スライド部材の一端間に挟まれるようにして該スライド部材の一端に対向配置され、前記ロータの外面には、該ロータが解錠位置にあるときに前記連結部材の一端に当接する駆動当接面と、前記ロータが施錠位置にあるときに前記連結部材の一端に当接することを回避する逃げ凹部とが設けられることを特徴とする。

【発明の効果】

【０００８】

上記請求項１記載の発明によれば、シリンダ錠のシリンダ体が操作ハンドルに固定されるので、操作ハンドルの意匠面およびシリンダ錠間の隙間を小さくして外観性を高めることができる。しかもシリンダ錠のロータが解錠位置にあるときには、操作ハンドルとともに回動するシリンダ錠のロータの回動力が連結部材を介してスライド部材に伝達されてロック機構がアンロック状態となり、前記ロータが施錠位置にあるときには、操作ハンドルとともに回動するシリンダ錠のロータの回動力は連結部材を介してスライド部材に伝達されることはなく、操作ハンドルの回動操作力をスライド部材に伝達するための構成部品を連結部材のみとして構成部品を少なくし、構造を単純化することでコスト低減を図るとともに、操作ハンドルの操作力をロック機構に伝達するのに作動遅れが生じないようにして、操作フィーリングの向上を図ることができる。

【０００９】

また請求項２記載の発明によれば、前記ロータが解錠位置にあるときに連結部材の一端に当接する駆動当接面と、前記ロータが施錠位置にあるときに前記連結部材の一端に当接することを回避する逃げ凹部とが設けられる前記ロータの外面に設けられるだけの単純な構造で、操作ハンドルの回動力のスライド部材への伝達・遮断をシリンダ錠の解錠・施錠操作に応じて切換えることができる。しかもリッドの閉鎖状態では、戻しばねでロック作動位置側に付勢されるスライド部材の一端と、ベース部材に設けられる規制部との間に連結部材の他端が挟まれるものであり、戻しばねのばね力が作用することでスライド部材および連結部材がベース部材の規制部に押しつけられており、スライド部材および連結部材のがたつきを抑え、がたつき音の発生を防止することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１０】

以下、本発明の実施の形態を、添付の図面に示した本発明の一実施例に基づいて説明する。

【００１１】

図１～図１０は本発明の一実施例を示すものであり、図１はグローブボックスの正面図、図２はベース部材、操作ハンドルおよびロック機構をリッドの正面側から見た図、図３はスライド部材がロック作動位置にある状態でのベース部材、操作ハンドルおよびロック機構を図２とは反対側から見て一部を切欠いた図、図４は図２の４－４線断面図、図５はリッドの開放状態での図２の５－５線断面図、図６はリッドの閉鎖状態での図５に対応した断面図、図７はシリンダ錠のロータが解錠位置にある状態での図４の７矢示部拡大図、図８はシリンダ錠のロータが解錠位置にある状態で操作ハンドルを開放操作したときの図７に対応した図、図９はシリンダ錠のロータが施錠位置にあるときの操作ハンドルの非操作状態での図８に対応した図、図１０はシリンダ錠のロータが施錠位置にある状態で操作ハンドルを開放操作したときの図９に対応した図である。

【００１２】

先ず図１において、たとえば左ハンドルである乗用車両の車室内前部に配置されるインストルメントパネル１５に、該インストルメントパネル１５と一体であるボックス本体１６と、水平軸線まわりに上下に回動するようにしてボックス本体１６の開口部を開閉可能なリッド１７とを備えるグローブボックス１８が、助手席１９の前方に位置するようにして設けられる。

【００１３】

図２～図４を併せて参照して、合成樹脂から成るリッド１７には、その内部に収容されるようにして左右方向に延びる合成樹脂製のベース部材２０が取付けられており、このベース部材２０の左右方向一端側（この実施例では左端側）には操作ハンドル２１が回動可能に支承され、施錠位置および解錠位置間で回動するロータ２４がシリンダ体２３に回動可能に挿入されて成るシリンダ錠２２の前記シリンダ体２３が前記操作ハンドル２１に固定される。またロック作動位置およびアンロック作動位置間でのスライド動作を可能としたスライド部材２６を有するとともに該スライド部材２６のスライド動作に応じて前記リッド１７の閉鎖状態を維持するロック状態ならびに前記リッド１７の開放を許容するアンロック状態を切換えるロック機構２５が前記ベース部材２０に配設されており、前記シリンダ錠２２のロータ２４およびスライド部材２６間には、前記ロータ２４が解錠位置にあるときに前記操作ハンドル２１を開放側に回動操作したときには前記スライド部材２６をロック作動位置からアンロック作動位置側にスライドさせるべく前記操作ハンドル２１とともに回動する前記ロータ２４の回動力を前記スライド部材２６に伝達するものの前記ロータ２４が施錠位置にあるときにはロック作動位置にある前記スライド部材２６および前記ロータ２４間の動力伝達を遮断する連結部材２７が介装される。

【００１４】

図５を併せて参照して、ロック機構２５は、前記ベース部材２０の左右方向他端側（この実施例では右端側）に固定される金属製のボディ３０と、ボックス本体１６側に設けられるストライカ３１と、該ストライカ３１に係合し得るラッチ３２と、ストライカ３１に

係合して前記ラッチ３２が回動するように該ラッチ３２を回動可能に支承して前記ボディ３０に装着される第１支軸３３と、前記ボディ３０および前記ラッチ３２間に設けられるばね３４と、ストライカ３１に係合したラッチ３２に係合して該ラッチ３２の回動を阻止することによりリッド１７の閉鎖状態を維持するロック作動位置（図２および図３で示す位置）ならびに前記ラッチ３２との係合を解除して該ラッチ３２の回動を許容することによりリッド１７の開放を許容するアンロック作動位置間での直線的な移動を可能として前記ボディ３０に装着される鋼板製のスライド部材２６と、該スライド部材２６およびベース部材２０間に設けられる戻しばね３５とを備える。

【００１５】

ラッチ３２には、ボディ３０内に進入してきたストライカ３１を係合させる係合溝３２ａが設けられており、ラッチ３２が開放位置にある状態でリッド１７を閉じ側に操作すると、ストライカ３１でラッチ３２が図６で示す閉鎖位置まで回動してストライカ３１が係合溝３２ａに係合することになり、この状態でラッチ３２の回動が阻止されることにより、リッド１７が閉鎖状態でロックされる。

【００１６】

前記第１支軸３３を囲繞するばね３４の両端はボディ３０およびラッチ３２に係合される。このばね３４は、ラッチ３２を図５で示す開放位置側すなわち図５および図６の時計方向に回動付勢するばね力を発揮するものであり、ボディ３０には、ラッチ３２の開放位置側への回動端を規制すべくラッチ３２に当接可能な回動規制部３６が設けられる。

【００１７】

またラッチ３２の左右一側でボディ３０には、ボディ３０内に進入してくるストライカ３１に当接する板ばね３７が固着されており、この板ばね３７が発揮する弾発力により、ストライカ３１がボディ３０に衝撃的に接触することが防止される。

【００１８】

スライド部材２６は、第１支軸３３の軸線と平行な方向に長く延びるものであり、ベース部材２０と、該ベース部材２０に固定される前記ボディ３０とで長手方向のスライド動作を可能として支承される。このスライド部材２６には、ストライカ３１で閉鎖位置まで回動された状態にあるラッチ３２に係合して該ラッチ３２を閉鎖位置に保持するための係合突部３８が側方に突出するようにして一体に突設される。

【００１９】

而してスライド部材２６は、図３および図６で示すように係合突部３８をラッチ３２に係合させるようにした長手方向一端側のロック作動位置と、図３の鎖線で示すように係合突部３８をラッチ３２に係合可能な位置から移動させるようにした長手方向他端側のアンロック作動位置との間でのスライド動作が可能である。

【００２０】

スライド部材２６の一端にはばね当接部３９が設けられており、ベース部材２０に突設された軸４０を囲繞する捩じりばねである前記戻しばね３５の両端部がベース部材２０および前記ばね当接部３９に当接、係合され、この戻しばね３５のばね力によりスライド部材２６はロック作動位置側に付勢される。

【００２１】

図７において、操作ハンドル２１は、前記スライド部材２６の長手方向と直交して上下に延びる軸線を有する第２支軸４３を介してベース部材２０の左右方向一端側（この実施例では左端側）に回動可能に支承される金属製のハンドル主体４４と、該ハンドル主体４４に装着される合成樹脂製の意匠部材４５とから成る。

【００２２】

前記リッド１７にはベース部材２０の一部を臨ませる凹部４６が設けられており、前記ハンドル主体４４は、第２支軸４３で支持される軸支部４４ａと、該軸支部４４ａから延出されて凹部４６内に配置される支持腕部４４ｂと、ベース部材２０側に突出するようにして前記支持腕部４４ｂの中間部に設けられる装着筒部４４ｃと、慣性力で操作ハンドル２１が開放側に回動することを阻止するために前記支持腕部４４ｂとは反対側で前記軸支

部４４ａに連なるカウンタウエイト部４４ｄとを一体に有する。

【００２３】

前記意匠部材４５は、ハンドル主体４４の支持腕部４４ｂに軸支部４４ａとは反対側から嵌合、装着されるものであり、この意匠部材４５には、支持腕部４４ｂの先端部に弾発的に係合する係合部４５ａが設けられるとともに、前記ハンドル主体４４の装着筒部４４ｃに対応した円形の装着孔４６が設けられる。

【００２４】

また操作ハンドル２１のハンドル主体４４およびベース部材２０間には、第２支軸４３を囲繞するねじりばね４７が設けられており、このねじりばね４７のばね力により、操作ハンドル２１は閉じ側に付勢され、ベース部材２０には、操作ハンドル２１が閉じ位置にあるときにハンドル主体４４の支持腕部４４ｂに当接して操作ハンドル２１の閉じ位置を定める規制リブ４８が一体に突設される。さらに規制リブ４８よりも外方でベース部材２０には、規制リブ４８および前記支持腕部４４ｂ間に操作者の指が挟まれることを防止するための指挟み防止リブ４９が一体に突設される。

【００２５】

而して意匠部材４５のハンドル主体４４への装着にあたっては、ハンドル主体４４が閉じ位置にある状態では意匠部材４５に設けられる係合部４５ａが前記規制リブ４８および指挟み防止リブ４９と干渉して装着が不可能となるものであり、開放位置側に回動したハンドル主体４４の支持腕部４４ｂに軸支部４４ａとは反対側から意匠部材４５を嵌合、装着するようにすればよい。

【００２６】

シリンダ錠２２のシリンダ体２３は、ハンドル主体４４に意匠部材４５が装着された状態で装着孔４６からハンドル主体４４の装着筒部４４ｃに回転不能として嵌合される。しかも装着筒部４４ｃの外周には、該装着筒部４４ｃ内に両端部を突入させ得る略Ｃ字状の弾性係合部材５０が装着されており、装着筒部４４ｃ内にシリンダ体２３を嵌合することで弾性係合部材５０の両端部がシリンダ体２３の外周に弾発係合することにより、シリンダ体２３が装着筒部４４ｃに嵌合、固定される。

【００２７】

ところでロータ２４は、回動可能としてシリンダ体２３に挿入されるとともにその前端を意匠部材２５の外面に臨ませるようにして意匠部材２５の装着孔４６に挿入されるものであり、ロータ２４は、該ロータ２４に設けられるキー孔５１に挿入されるキー（図示せず）による回動操作によって、図１および図２で示す解錠位置と、その解錠位置から略９０度だけ図１および図２の時計方向に回動した施錠位置との間で回動可能であり、ロータ２４内には、解錠位置および施錠位置間のロータ２４の回動の許容・阻止をキー孔５１への正規キーの挿入によるシリンダ体２３への係脱によって切り換えるタンブラー５２…が設けられる。

【００２８】

前記ロータ２４の一部外面はハンドル主体４４および意匠部材４５間で露出されており、このロータ２４の露出部外面に一端を対向させる連結部材５３が、前記ロータ２４および前記スライド部材２６間に介装される。

【００２９】

この連結部材５３は、前記ロータ２４が解錠位置にあるときに操作ハンドル２１を開放側に回動操作したときにはスライド部材２６をロック作動位置からアンロック作動位置側にスライドさせるべく操作ハンドル２１とともに回動するロータ２４の回動力をスライド部材２６に伝達するもののロータ２４が施錠位置にあるときにはロック作動位置にある前記スライド部材２６および前記ロータ２４間の動力伝達を遮断する働きをする。

【００３０】

この連結部材５３は、前記操作ハンドル２１の回動軸線と同一軸線まわりに回動することを可能としてベース部材２０に支承されるものであり、操作ハンドル２１をベース部材２０に回動可能に支承する第２支軸４３に連結部材５３が回動可能に支承される。

【００３１】
連結部材５３の一端が対向する部分で前記ロータ２４の外面には、該ロータ２４が解錠位置にあるときに前記連結部材５３の一端に当接する駆動当接面５４と、前記ロータ２４が施錠位置にあるときに前記連結部材５３の一端に当接することを回避する逃げ凹部５５とが設けられる。
【００３２】
また連結部材５３の他端は、前記スライド部材２６の一端に対向するように配置されるものであり、図７で示すように、スライド部材２６がロック作動位置にある状態ではベース部材２０に設けられた規制部５６およびスライド部材２６の一端間に挟まれるようにして該スライド部材２６の一端に対向配置される。
【００３３】
而してロータ２４が解錠位置にあるときには図７で示すように、ロータ２４の駆動当接面５４が連結部材５３の一端に対応する位置にあって連結部材５３の一端が該駆動当接面５４に当接しており、この状態で、操作ハンドル２１を開放操作すると、図８で示すように、連結部材５３はシリンダ錠２２のロータ２４とともに回動し、スライド部材２６をロック作動位置からアンロック作動位置側にスライドさせる力が連結部材５３からスライド部材２６に伝達される。これによりスライド部材２６は、その係合突部３８を、図３の実線で示す位置から図３の鎖線で示す位置に移動させるようにしてスライド作動することになり、この状態では、ラッチ３２がばね３４のばね力によってストライカ３１との係合を解除する側に回動することになり、ロック機構２５がアンロック状態となる。
【００３４】
この際、操作ハンドル２１から手を離すことにより該操作ハンドル２１がねじりばね４７のばね力によって閉鎖位置に戻ると、スライド部材２６はアンロック作動位置からロック作動位置に戻しばね３５のばね力によって戻ろうとするが、既にラッチ３２がアンロック作動位置側に戻っており、係合突部３８がラッチ３２の側面に当接することでスライド部材２６はロック作動位置まで戻ることはない。而してリッド１７を閉鎖位置側に戻すことでラッチ３２がストライカ３１との係合によって回動すると、スライド部材２６は係合突部３８をラッチ３２に係合させてロック機構２５をロック状態とすべくロック作動位置まで戻ることになる。
【００３５】
またロータ２４が施錠位置にあるときには図９で示すように、ロータ２４の逃げ凹部５５が連結部材５３の一端に対応する位置にあり、この状態で、操作ハンドル２１を開放操作すると、図１０で示すように、ロータ２４が操作ハンドル２１とともに回動しても連結部材５３の一端は逃げ凹部５５内に入り込むだけであり、連結部材５３は静止したままであり、ロック作動位置にあるスライド部材２６および前記ロータ２４間の動力伝達を遮断すべく連結部材５３は静止したままである。
【００３６】
次にこの実施例の作用について説明すると、シリンダ錠２２のシリンダ体２３が操作ハンドル２１に固定されるので、操作ハンドル２１の意匠面およびシリンダ錠２２間の隙間を小さくして外観性を高めることができる。
【００３７】
しかもロータ２４が解錠位置にあるときに操作ハンドル２１を開放側に回動操作したときにはスライド部材２６をロック作動位置からアンロック作動位置側にスライドさせるべく操作ハンドル２１とともに回動するロータ２４の回動力をスライド部材２６に伝達するもののロータ２４が施錠位置にあるときにはロック作動位置にあるスライド部材２６およびロータ２４間の動力伝達を遮断する連結部材５３がロータ２４およびスライド部材２６間に介装されるので、シリンダ錠２２のロータ２４が解錠位置にあるときには、操作ハンドル２１とともに回動するシリンダ錠２２のロータ２４の回動力が連結部材５３を介してスライド部材２６に伝達されてロック機構２５がアンロック状態となり、またロータ２４が施錠位置にあるときには、操作ハンドル２１とともに回動するシリンダ錠２２のロータ

２４の回動力は連結部材５３を介してスライド部材２６に伝達されることはなく、操作ハンドル２１の回動操作力をスライド部材２６に伝達するための構成部品を連結部材５３のみとして構成部品を少なくし、構造を単純化することでコスト低減を図るとともに、操作ハンドル２１の操作力をロック機構２５に伝達するのに作動遅れが生じないようにして、操作フィーリングの向上を図ることができる。

【００３８】

また連結部材５３は、操作ハンドル２１の回動軸線と同一軸線まわりに回動することを可能としてベース部材２０に支承されてロータ２４およびスライド部材２６間に介装され、ロータ２４の外面には、該ロータ２４が解錠位置にあるときに前記連結部材５３の一端に当接する駆動当接面５４と、前記ロータ２４が施錠位置にあるときに前記連結部材５３の一端に当接することを回避する逃げ凹部５５とが設けられており、そのような単純な構造で、操作ハンドル２１の回動力のスライド部材２６への伝達・遮断をシリンダ錠２２の解錠・施錠操作に応じて切換えることができる。

【００３９】

しかもスライド部材２６および前記ベース部材２０間には前記スライド部材２６をその長手方向一端側のロック作動位置に向けて付勢する戻しばね３５が設けられ、連結部材５３の他端は、スライド部材２６がロック作動位置にある状態ではベース部材２０に設けられた規制部５６および前記スライド部材２６の一端間に挟まれるようにして該スライド部材２６の一端に対向配置されるので、リッド１７の閉鎖状態では、戻しばね３５のばね力が作用することでスライド部材２６および連結部材５３がベース部材２０の規制部５６に押しつけられており、スライド部材２６および連結部材５３のがたつきを抑え、がたつき音の発生を防止することができる。

【００４０】

以上、本発明の実施例を説明したが、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載された本発明を逸脱することなく種々の設計変更を行うことが可能である。

【図面の簡単な説明】

【００４１】

【図１】グローブボックスの正面図である。

【図２】ベース部材、操作ハンドルおよびロック機構をリッドの正面側から見た図である。

【図３】スライド部材がロック作動位置にある状態でのベース部材、操作ハンドルおよびロック機構を図２とは反対側から見て一部を切欠いた図である。

【図４】図２の４－４線断面図である。

【図５】リッドの開放状態での図２の５－５線断面図である。

【図６】リッドの閉鎖状態での図５に対応した断面図である。

【図７】シリンダ錠のロータが解錠位置にある状態での図４の７矢示部拡大図である。

【００４２】

【図８】シリンダ錠のロータが解錠位置にある状態で操作ハンドルを開放操作したときの図７に対応した図である。

【図９】シリンダ錠のロータが施錠位置にあるときの操作ハンドルの非操作状態での図８に対応した図である。

【図１０】シリンダ錠のロータが施錠位置にある状態で操作ハンドルを開放操作したときの図９に対応した図である。

【符号の説明】

【００４３】

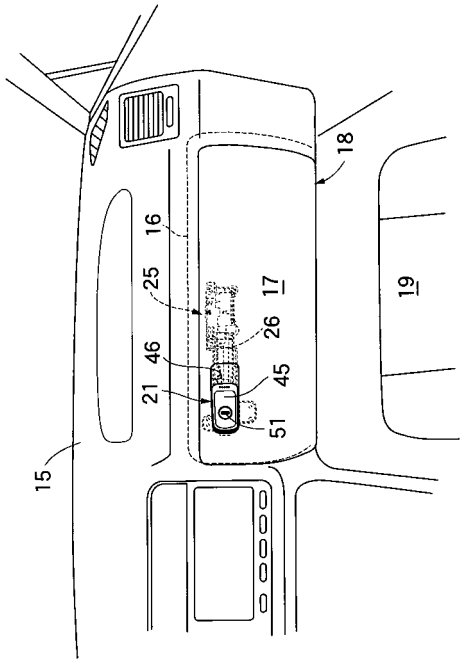
１６・・・ボックス本体

１７・・・リッド

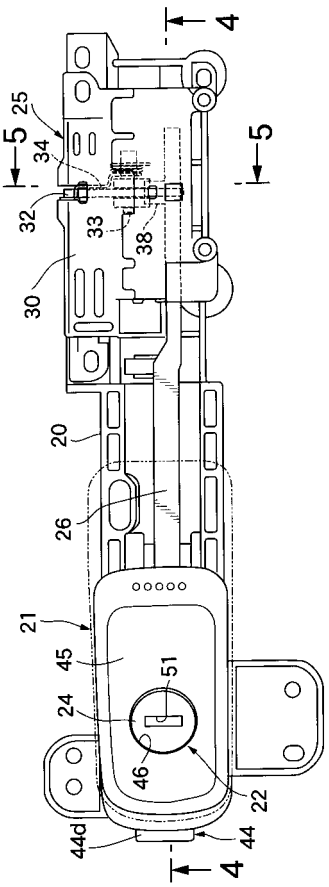
２０・・・ベース部材

２１・・・操作ハンドル
２２・・・シリンダ錠
２３・・・シリンダ体
２４・・・ロータ
２５・・・ロック機構
２６・・・スライド部材
３５・・・戻しばね
５３・・・連結部材
５４・・・駆動当接面
５５・・・逃げ凹部
５６・・・規制部

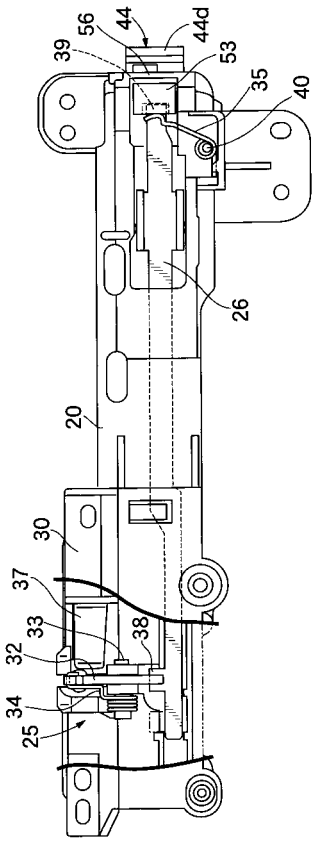
【図１】



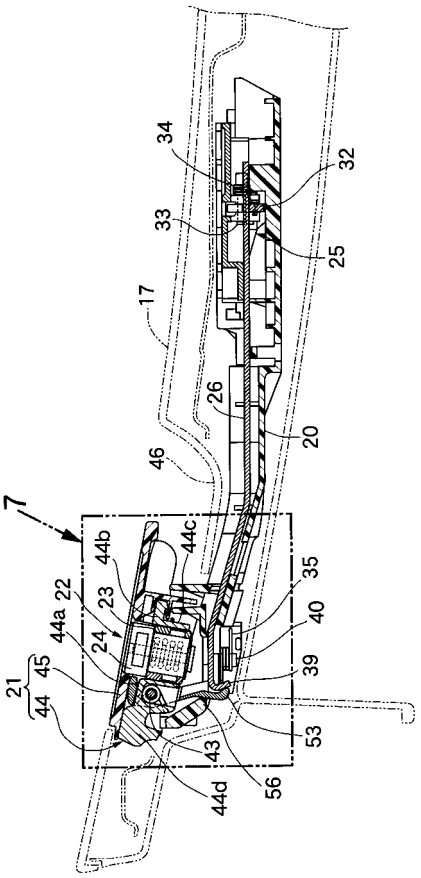
【図２】



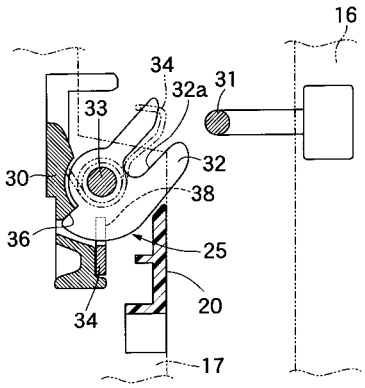
【図３】



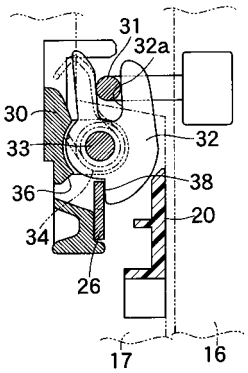
【図４】



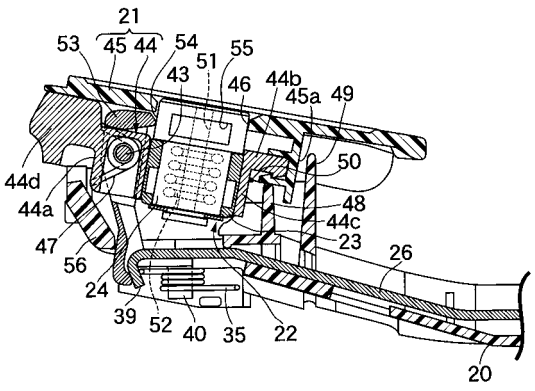
【図５】



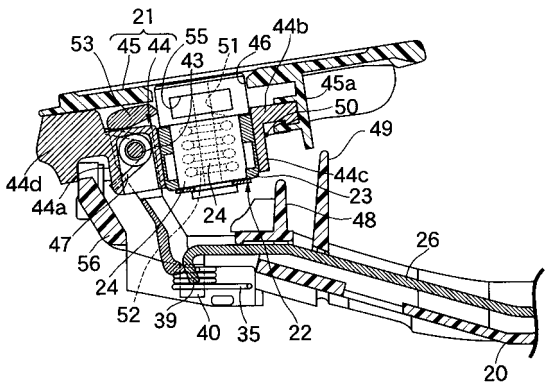
【図６】



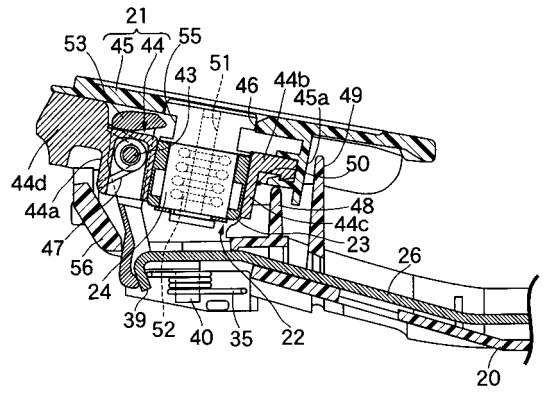
【図７】



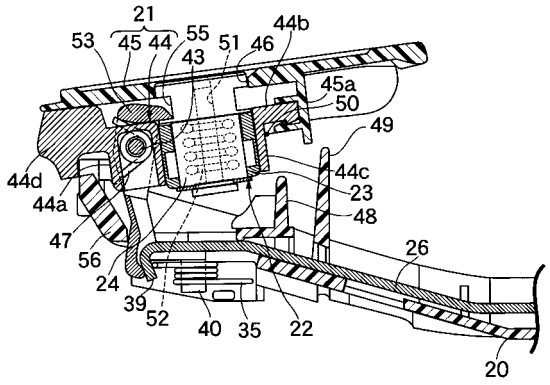
【図８】



【図９】


21
53
45
44
55
43
51
46
44b
45a
49
50
48
44c
23
26
44d
44a
47
56
24
39
52
40
35
22
20

【図１０】


21
53
45
44
55
43
51
46
44b
45a
50
49
44c
23
48
26
44d
44a
47
56
24
39
52
40
35
22
20

フロントページの続き

Ｆターム(参考) 2E250 AA21 HH01 JJ41 JJ42 JJ49 KK01 LL11 PP11 PP15 QQ03
QQ04
3D022 CA08 CC02 CD14